

## 『平成 30 年度 市長と女性の懇談会』

開催日時 : 平成 30 年 11 月 22 日 (木) 午後 3 時～午後 5 時

開催場所 : 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 研修室 (大)

テーマ : 「天災を人災にしないために！

～日頃からの備え・女性目線の避難所など～

参加者 : 女性参加者…豊橋女性団体連絡会会員 3 名、公募参加者 3 名

市側参加者…市長、企画部長、危機管理統括部長、福祉部長、防災危機管理課長、福祉政策課長、広報広聴課長

### 【主な女性参加者意見、市の回答】

女性参加者意見	市の回答
<p>災害発生時の被害を最小限にするために「公助」、「共助」はもちろん、一人ひとりが、自分にできることは何かを考え、防災意識を持ち、備える「自助」が大変重要であると考えます。私自身も、「私にできることは何か」考え、備えたいと思います。</p> <p>「私にできること」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然に対する謙虚な姿勢</li> <li>・ 日頃からの心構え</li> <li>・ 自宅の耐震化</li> <li>・ 我が家を避難所にする</li> </ul>	<p>○災害に備えて、ほっとメールや防災ラジオ等の災害情報を入手する手段の確保や、ご自宅のまわりの危険箇所や避難経路の確認、1 週間分の備蓄食料の確保や、家族同士の安否確認方法を事前に決めておくなど、自助による取り組みが重要です。</p> <p>○また、地震への備えとしてご自宅の耐震化や家具の固定も重要です。本市では昭和 56 年 6 月より前に建築された木造住宅の無料診断を行っており、診断により安全性に問題があった住宅を対象とした耐震改修補助金の制度もございます。</p> <p>○災害時に自宅の安全性が確認できれば、必ずしも避難所へ避難する必要はありません。ただし、在宅避難をする場合は、安否確認や物資配給の基礎情報として必要なため、お近くの避難所にて在宅避難されていることを登録しておく必要があります。</p>

女性参加者意見	市の回答
<p>指定避難所の容量を考えると、無理に避難せず、自宅で安全確保を心がけようと考えています。この場合の自宅への救援・物資配給などについて考えて欲しいと思います。</p> <p>HUG・クロスロードなど、学習や研修を展開してきました。災害の種類によって、援助の仕方も変わりますが、基本のところは不変だと思います。話し合っただけで終わりではなく、より現実的なものに繋がることを期待しています。</p>	<p>○在宅被災者の把握は、自治会や避難所単位で構成される避難所運営委員会が中心となっ て行い、把握した情報を基に物資・食料等の配付を行うこととなります。</p> <p>○配付方法については、戸別に配達することは運営委員会の人員体制から難しいと考 えておりますが、高齢者や障害者などの要配慮者の方については、地域の皆様のご協力を頂 きながら、戸別配付も含め、実情に合わせた方法で行いたいと考えています。</p> <p>○なお、本市の指定避難所の収容可能人数は全体で約 76,000 人であり、南海トラフ地震 が発生した場合の避難所への想定避難者数約 45,000 人を上回っているため、指定避難 所の容量は充足しています。</p> <p>○HUG 等を実災害の対応に繋げる取り組みとして、本市では今年度から実際の避難所とな る小学校を舞台に、自治会と学校とが連携して具体的な避難スペースについて検討する 「実動版 HUG」の取り組みを始めたところです。</p> <p>○また、最近では校区防災訓練において、事前学習としてHUGを実施し、避難所に対する 理解を深めた上で避難所運営訓練を行うなどの事例もみられます。こうした効果的な訓 練が多くの校区・町に広がるよう、取り組んでいきたいと考えています。</p>

女性参加者意見	市の回答
<p>西日本豪雨災害の時、水害で水に沈んだ地域は、ハザードマップで分かっていたにもかかわらず、被害を防ぐことはできませんでした。</p> <p>例えば、「どうしたら防災訓練参加者が増えるか」など、被害を防ぐための日頃の防災訓練、情報伝達方法について、何か良い方法はないでしょうか。</p>	<p>○西日本豪雨で多くの方が犠牲になられた原因に、ハザードマップがあまり知られていなかったことや、危険が迫っていても、「自分だけは大丈夫」と考えてしまう『正常性バイアス』の心理が働いたことが指摘されています。</p> <p>○土砂災害、洪水、高潮や、地震による震度・液状化・津波浸水など、災害種別ごとのハザードマップを活用して、地域の危険性を正しく知っていただく必要があります。</p> <p>○本市では豊橋ほっとメール、防災ラジオ、同報系防災無線、Lアラート、ホームページやSNSなど、災害情報の複線化を図っています。市民の皆様には災害情報を入手する手段を複数確保していただきたいと思います。</p> <p>○校区や町の防災訓練では、幅広い世代の方が参加いただき、近所どうしの安否確認訓練や、情報を得られにくい要配慮者の方への情報伝達訓練、避難訓練などを実施していただきたいと思います。</p>

女性参加者意見	市の回答
<p>台風 24 号の際、豊橋で広く停電になりました。停電の際、スマートフォン所有者は情報を得ることができましたが、それらを所有しない人は、状況が分からず、困っていました。そのような情報弱者への対策が必要だと思います。</p> <p>また、スマートフォンで市や中部電力のホームページを確認しても、いつ電気が復旧するのか分かりませんでした。正確な復旧時間は分からなくても、停電が長引くかどうかだけでも教えて欲しいと思いました。(特に女性にとって、夜電気が使用できるのかどうかは重要です。)</p>	<p>○先日の台風 24 号では市内の 7 割以上の世帯が停電となりました。多くの市民から問い合わせをいただきましたが、中部電力に確認したところ、市内一円で倒木や飛来物による電線の切断等が発生し被害が長時間・広範囲に及び、復旧見込みが立てられなかったとの事でした。</p> <p>○こうした問題を受け、現在本市では中部電力と協議を行い、大規模停電時であっても情報を共有し、復旧見込み等を可能な限り発信できるように検討を進めているところです。</p> <p>○また、停電の事前対策として、防災ラジオ、懐中電灯、モバイルバッテリー、手回し発電機や飲料水、食料などの備蓄を促す啓発活動に、いっそう取り組んでいきたいと考えています。</p>

女性参加者意見	市の回答
<p>被災した地域を女性が視察できる機会を設け、いざという時に避難所の運営にかかわる事ができるような体制を整えるとよいと思います。</p> <p>また、町内の独居老人などの把握は、民生委員のみに任せず、「誰が誰を助けるか」を決めておくとうよいと思います。</p>	<p>○被災地では被災された方々の心情やプライバシーに配慮する必要があります。そのため、視察という方法はなかなか難しいと思います。</p> <p>○本市では西日本豪雨における倉敷市への避難所運営支援など、被災地への職員派遣を行っております。被災地での経験や被災自治体から得た情報を、今後の避難所運営に活かしていきたいと考えています。</p> <p>○「誰が誰を助けるか」を決めておくという点ですが、本市独自の事業として、避難行動要支援者台帳登録事業があります。この事業は、高齢者や障害者など発災時に支援を要する方々の緊急連絡先等の情報のほか、その方の近所にお住まいの方々を「近隣協力員」として登録し、その情報を事前に自主防災会や民生委員へ提供することで、災害時の安全確保に加え、日頃の見守り活動に活用しております。</p> <p>○また、要介護の高齢者や障害者など市が把握している名簿データから、災害対策基本法に基づき警察や消防など避難支援に携わる関係者に提供し、要支援者の安全確保に役立つ事業も行っております。</p> <p>○市では一つ目の台帳登録を積極的に進め、地域全体で要支援者への支援を行いたいと考えています。</p>

女性参加者意見	市の回答
<p>○女性が安心、安全に過ごせる避難所にするために、配慮や対策が必要であると思います。</p> <p>○大災害が起きると、「避難所生活でのプライバシーのなさ」や、「女性被害」が、ニュースなどで取り上げられ不安に感じています。</p> <p>小さい子どもを持つ親として、避難所で、「子どもをどう過ごさせてあげられるのか」「周囲の方に迷惑をかけてしまうのではないかなど不安に感じるものが少なくありません。自分の避難所での生活がイメージしづらく、また、どの程度の備蓄品があるのかも分からないのが現状です。</p> <p>例えば、避難訓練などで説明があるだけでも多少の不安は取り除けますし、可能であれば、宿泊型・参加者限定型ではなく、避難所生活のシミュレーションができたり、模型などでも構わないので、避難所の全体像を視覚的に把握できるような機会があればと感じています。</p> <p>避難訓練は、自治会が行ってくれていますが、市からのサポートも加わり、より多くの情報が届くようになって欲しいと思います。</p>	<p>○豊橋市避難所運営マニュアルに基づき、自治会や避難者が中心となって組織される避難所運営委員会が、施設内のレイアウト等も含め運営にあたることとしており、女性や子どもへの配慮についても鑑みて、少なくとも3割以上は女性で組織するよう努めます。</p> <p>○更衣室や授乳室設置の際には、間仕切りやブルーシートの設置、離れた場所に部屋を配置するなどの工夫を行い、女性や育児に配慮した運営を地域の方々やボランティアの協力を得ながら行います。</p> <p>○物資等の配給でも、生理用品などの受け取る人に配慮した場所で行います。</p> <p>○女性や子どもへの犯罪などに対する安全対策として、防犯ブザーやホイッスルの配付、警察官による巡回を依頼するなど、安心して避難生活を送れるよう取組みを進めています。</p> <p>○地域で行われる避難訓練、HUG等の防災訓練において、なるべく写真や図面の使用や、備蓄品の状況を説明するなど、避難所生活をより具体的にイメージしていただけるよう取り組んでいきたいと思っています。</p>